

(19)日本国特許庁(JP)

(12)登録実用新案公報(U)

(11)登録番号
実用新案登録第3251183号
(U3251183)

(45)発行日 令和7年5月8日(2025.5.8)

(24)登録日 令和7年4月25日(2025.4.25)

(51)国際特許分類	F I
A 4 7 C 17/02 (2006.01)	A 4 7 C 17/02 Z
A 4 7 C 13/00 (2006.01)	A 4 7 C 13/00 B
A 4 7 C 27/12 (2006.01)	A 4 7 C 27/12 G
	A 4 7 C 27/12 Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 書面 (全11頁)

(21)出願番号 実願2024-4432(U2024-4432)	(73)実用新案権者 395003855
(22)出願日 令和6年12月24日(2024.12.24)	株式会社丸庄
	福岡県大川市大字酒見 5 4 3 番地
	(72)考案者 酒見 俊郎
	福岡県大川市大字酒見 5 4 3 株式会社
	丸庄内
	(72)考案者 酒見 達郎
	福岡県大川市酒見 5 4 3 株式会社丸庄内
	(72)考案者 島崎 智成
	福岡県大川市酒見 5 4 3 株式会社丸庄内

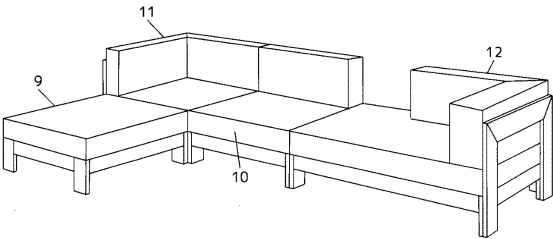
(54)【考案の名称】 多様性を高めた組み合わせソファ家具

(57)【要約】 (修正有)

【課題】連結可能な大型低座高ソファにおいて、休息を補助する多様性を高めた組み合わせソファ家具を提供する。

【解決手段】4種類の形態の異なる角型ソファタイプチェア 9 ～ 1 2 の連結可能な大型低座高ソファであって、各角型ソファタイプチェアは厚さ 2 0 ～ 5 0 mm、幅 1 0 0 ～ 1 5 0 mmの厚板材で構成されており、骨格木質体の寸効として横幅 8 0 0 ～ 1 0 0 0 mm、縦幅 8 0 0 ～ 1 2 0 0 mm、座高幅 1 5 0 ～ 3 0 0 mmの正方形、又は長方形の矩形状のチェア様体であり、背もたれ部を持たないオットマンソファタイプ 9 と、一カ所に背もたれ部を持つ部分的チェアタイプ 1 0 と、二カ所に背もたれ部を持つコーナー状チェアタイプ 1 1 と、二カ所の背もたれ部を持つ長手ソファタイプ 1 2 とで横幅と座高幅を同一した 4 体の組み合わせ連結ソファタイプになっている。

【選択図】図 1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

4 種類の形態の異なる角型ソファタイプチェアの連結可能な大型低座高ソファにおいて、各角型ソファタイプチェアは厚さ 20 ~ 50 mm、幅 100 ~ 150 mm の厚板材で構成されており、骨格木質体の寸効として横幅 800 ~ 1000 mm、縦幅 800 ~ 1300 mm、座高幅 200 mm の正方形、又は長方形の矩形状のチェア様体であり、背もたれ部を持たないオットマンソファタイプと、一カ所に背もたれ部を持つ部分的チェアタイプと、二カ所に背もたれ部を持つコーナー状チェアタイプと、二カ所の背もたれ部を持つ長手ソファタイプとで横幅と座高幅を同一した 4 体の種々の組み合わせ連結ソファタイプになって、

10

これらの 4 体のうち、ソファ体とチェア体の単独に、或いは 2 ~ 4 体の連結組み合わせによって、リラックスできる状態の単独的チェア、及び連結ソファ、及び簡易ベッドにして精神的、肉体的に身体を休める団欒・休息的姿勢にすることになって、大型家具でも単独、或いは連結にて部屋内で適切に設置して使用できることを特徴とする多様性を高めた組み合わせ立体ソファ家具。

【請求項 2】

背もたれ部を持たないオットマンソファタイプと、一カ所に背もたれ部を持つ部分的チェアタイプと、二カ所に背もたれ部を持つコーナー状チェアタイプと、二カ所の背もたれ部を持つ長手ソファタイプとの 4 体骨格木質体のチェア様体は、それぞれオールナットの厚さ 20 ~ 50 mm、幅 100 ~ 150 mm の厚板材で、横幅 800 ~ 1000 mm、縦幅 800 ~ 1300 mm、座高幅 200 mm の正方形と長方形の立体矩形状を構成して、横幅 800 ~ 1000 mm、背高 300 ~ 400 mm の背もたれ部分を矩形座板面上の一カ所、又は二カ所に取り付けて、座板面に対して背もたれ部面を 90 ~ 110 ° の角度で直角面、又は傾斜面に選択して取り付け、背もたれ部分の補助的骨格木質体の格子状形状に、角板材の数本の格子材、又は角板材を角度として 10 ~ 20 ° の傾斜面にした数本の格子材を形成して、矩形状の背もたれ部分の空間部に直角面、或いは傾斜面として取り付け、前記格子材を取り付けた背もたれ部面に厚さ 150 ~ 300 mm の正方体、又は長方体の布製、又は皮製、又は合成皮革製の衝撃緩和性クッション材入り角袋状体を置いて、及び敷いていることを特徴とする請求項 1 に記載の多様性を高めた組み合わせソファ家具。

20

30

【請求項 3】

リラックスできる状態の単独チェア、及び連結ソファ、及び簡易ベッドにして精神的、肉体的に身体を休めることに有効になって、大型家具でも単独、或いは連結によって適切な広さの部屋で設置でき、単独の場合には、背もたれ部を持たないオットマンソファタイプと、一カ所に背もたれ部を持つ低座高のチェア、二カ所に背もたれ部を持つコーナー状チェアタイプでは片側にひじ掛けと低座高になっているチェア、二カ所の背もたれ部を持つ長手ソファタイプでは身体を横長に伸ばして休息できる休息チェア、3 ~ 4 体のソファ体とチェア体の連結組み合わせによって、数名家族の団欒的ソファ、又は簡易安息ベッドに組み立てられることを特徴とする請求項 1、又は請求項 2 に記載の多様性を高めた組み合わせソファ家具。

40

【請求項 4】

座板面に上面に置くクッション部、及び背もたれ用クッション部の表面は、布製、又は皮製、又は合成皮革でできている衝撃緩和性クッション材入り角袋状体であって、内部にクッション性を高めるために綿と羽毛、及びポリエステル綿、及び発泡ウレタンフォームから選ばれたクッション材を充填しており、背もたれ部に置くクッション部を横幅 800 ~ 1000 mm、縦幅 800 ~ 1200 mm、高さ幅 150 ~ 300 mm の正方形、又は長方形の矩形状クッション部の 1 ~ 3 個で、座板面の表面に敷くクッション部をソファの敷物役目になるように安定感を持たせて、布体、又は皮革体、又は合成皮革体にして、綿、及び羽毛、及び発泡ウレタンフォームから選ばれたクッション材を充填し、自由に脱着移動できるようにしていることを特徴とする請求項 1、又は請求項 2 に記載の多様性を高め

50

た組み合わせソファ家具。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、連結可能な大型低座高ソファにおいて、オットマンソファタイプと部分的チェアタイプとコーナー状チェアタイプと長手ソファタイプとを連結組み合わせによって、休息を補助する多様性を高めた組み合わせソファ家具に関するものである。

【背景技術】

【0002】

周知のとおり、最近では、チェアとソファの機能を兼ねる家具本体に対して背もたれ、肘掛掛けを別部材として作製し、ソファの機能を持って使用目的に応じて両端の肘掛部を着脱できるようにしたソファが多用されている。 10

【0003】

ソファ体の組み立ての簡素な構造で、ソファ自身が自由に移動組み立て、ソファでの種々の機能を満足させることができ、ソファ本体を用途に沿って変更が容易にできるソファとして、ハート状円形体と半月状円形体としゃもじ状円形体とを連結組み合わせしたソファ家具において、各円形体の円形部を800～1000mmの直径にして、ハート状円形体のV字部が他の円形体の円形部の各部所に密着接合できようになり、前記ソファ部は300～400mmの厚さで、連結二段形状体にして上段と下段を二当分の結合連結体になって、前記上段をクッション体に、前記下段にスプリング入り箱体を形成して、上段より下段を狭くしている円形状体の三連結セットのソファであることが提案されている (特許文献1参照)。 20

【0004】

またソファ構造は、複雑な形態のレール部材や引掛け部材等の連結機構を必要としたことから、製造コストが嵩む要因となっただけでなく、連結機構の故障時には、その修理や部材の取り替えを業者に依頼せねばならない等、使用者にとっても不満な点があった。ソファ座面を平面から見て多角形、円形、長円形などの外形に形成し、該ソファ座面の外周縁の一部に沿って、前記座面より高く人が腰を下ろせる高さに形成した着座部を設けると共に、該着座部の前面側に、前記ソファ座面の背もたれとして機能する背もたれ体を移動できるように設けたソファ化提案されている (特許文献2参照)。 30

【0005】

美感に優れて組み立てが容易なソファを提供として、ソファは、座受け枠で支持された座部と、背支持フレームに固定された背部とを有している。背部は、背部本体(背ベース)とその前に配置した背クッション材、袋状の背張地とを備えている。背支持フレームには上下のボス部を前向きに突設しており、背部本体は、ボス部に前からねじ込まれたボルトによって背支持フレームに固定されている。背張地の下端にはスライドファスナで開閉できる開口が形成されており、背部本体を固定したら開口を閉じる。椅子またはソファに載置して使用されていることを提案されている (特許文献3参照)。

【0006】

上記従来のソファにおいては、肘掛けをソファ本体から取り外した際に、側面の受口金具が露出してしまい、ソファの室内装飾性を極めて損なっていた。着座部と、この着座部の一側部にて上方へ立設された背もたれ部とを具備してなるソファにおいて、前記着座部は、その一端部近傍の一部が、リクライニング部とされてなり、該リクライニング部は、他の着座部との連結箇所を中心として回動されて、他の着座部に対して傾斜された状態に支持されてなるソファが提案されている (特許文献4参照)。 40

【0007】

デザイン仕様の多様性とデリバリー簡易化と組立の簡略化を促進する簡単組立ソファとして、ソファを座面部、背もたれ部、アーム部、コーナー部、クッション部等にパーツ化、デザイン化しパーツの組み合わせにより丸型角型等デザイン表地色等がエンドユーザーが選択可能となり、ずれ防止固定体を固着させたマルチカバーをソファに固定させることが 50

でき、円柱型又は角柱型の芯が袋又は中空構造の布に出し入れ可能に収容されている防止固定体が提案されている（特許文献 5 参照）。

【 0 0 0 8 】

連結大型ソファにおいて、多様性をもたらしたものはなく、4 区分に分割して、単独に使用したり、2 ～ 4 体の組み立てにより、チェアとしてソファとして休息に適したソファ群が求められているが、中々少ない。一般にはチェアを並べて両端に置かれたソファが示されている。十分な機能を示していない状態である。チェアとソファを種々組み合わせて好みの位置に設置することができるものはほとんど存在していない。

【 先行技術文献 】

【 特許文献 】

10

【 0 0 0 9 】

【 特許文献 1 】 __ 実用新案登録第 3 2 1 6 0 0 6 号公報

【 特許文献 2 】 特開 2 0 0 4 - 1 7 4 0 8 7 号公報

【 特許文献 3 】 __ 特開 2 0 2 4 - 6 0 5 7 号公報

【 特許文献 4 】 特開平 6 - 8 6 7 2 3 号公報

【 特許文献 5 】 __ 実用新案登録第 3 2 0 9 8 4 1 号公報

【 考案の概要 】

【 考案が解決しようとする課題 】

【 0 0 1 0 】

本考案は、この上記の問題に鑑みてなされたものであって、その目的とするところは、を有して、それぞれ連結したチェアとソファのセットを提供して、大型のチェアとソファの組み立ての簡素な構造で、ソファ自身が自由に移動組み立て、変更を自由に出来て、ソファ、ベッドなどの種々の機能を満足させることができ、リラックスできる状態の単独的チェア、及び連結ソファ、及び簡易ベッドにして精神的、肉体的に身体を休める姿勢にすることになって、大型家具でも単独、或いは連結にて部屋内で適切に設置して使用できるものが望まれている。

20

【 0 0 1 1 】

大型ばチェアとソファの種々組み立てて、用途に沿って変更が容易にできて、ソファの今までにない役目を十分に持たせているものが要望されている。好みの位置に付けることができ、また部屋の模様によって単独でのチェア、ソファの位置を変更することによって、組み立て前のチェアとソファ全体のデザインが損なわれることなくインテリアデザインとして十分に耐え得る装飾性を持たせて、矩形状体の四連結セットのソファを提供することにある。

30

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 1 2 】

4 種類の形態の異なる角型ソファタイプチェアの連結可能な大型低座高ソファにおいて、各角型ソファタイプチェアは厚さ 2 0 ～ 5 0 mm、幅 1 0 0 ～ 1 5 0 mm の厚板材で構成されており、骨格木質体の寸効として横幅 8 0 0 ～ 1 0 0 0 mm、縦幅 8 0 0 ～ 1 3 0 0 mm、座高幅 2 0 0 mm の正方形、又は長方形の矩形状のチェア様体であり、背もたれ部を持たないオットマンソファタイプと、一カ所に背もたれ部を持つ部分的チェアタイプと、二カ所に背もたれ部を持つコーナー状チェアタイプと、二カ所の背もたれ部を持つ長手ソファタイプとで横幅と座高幅を同一した 4 体の種々の組み合わせ連結ソファタイプになって、

40

これらの 4 体のうち、ソファ体とチェア体の単独に、或いは 2 ～ 4 体の連結組み合わせによって、リラックスできる状態の単独的チェア、及び連結ソファ、及び簡易ベッドにして精神的、肉体的に身体を休める団欒・休息的姿勢にすることになって、大型家具でも単独、或いは連結にて部屋内で適切に設置して使用できる多様性を高めた組み合わせ立体ソファ家具である。

【 0 0 1 3 】

背もたれ部を持たないオットマンソファタイプと、一カ所に背もたれ部を持つ部分的チェ

50

アタイプと、二カ所に背もたれ部を持つコーナー状チェアタイプと、二カ所の背もたれ部を持つ長手ソファタイプとの4体骨格木質体のチェア様体は、それぞれオールナットの厚さ20～50mm、幅100～150mmの厚板材で、横幅800～1000mm、縦幅800～1300mm、座高幅200mmの正方形と長方形の立体矩形状を構成して、横幅800～1000mm、背高300～400mmの背もたれ部分を矩形座板面上の一カ所、又は二カ所に取り付けて、座板面に対して背もたれ部面を90～110°の角度で直角面、又は傾斜面を選択して取り付け、背もたれ部分の補助的骨格木質体の格子状形状に、角板材の数本の格子材、又は角板材を角度として10～20°の傾斜面にした数本の格子材を形成して、矩形状の背もたれ部分の空間部に直角面、或いは傾斜面として取り付け、前記格子材を取り付けた背もたれ部面に厚さ150～300mmの正方体、又は長方形の布製、又は皮製、又は合成皮革製の衝撃緩和性クッション材入り角袋状体を置いて、及び敷いている。

10

【0014】

リラックスできる状態の単独チェア、及び連結ソファ、及び簡易ベッドにして精神的、肉体的に身体を休めることに有効になって、大型家具でも単独、或いは連結によって適切な広さの部屋で設置でき、単独の場合には、背もたれ部を持たないオットマンソファタイプと、一カ所に背もたれ部を持つ低座高のチェア、二カ所に背もたれ部を持つコーナー状チェアタイプでは片側にひじ掛けと低座高になっているチェア、二カ所の背もたれ部を持つ長手ソファタイプでは身体を横長に伸ばして休息できる休息チェア、3～4体のソファ体とチェア体の連結組み合わせによって、数名家族の団樂的ソファ、又は簡易安息ベッドに組み立てられる。

20

【0015】

座板面に上面に置くクッション部、及び背もたれ用クッション部の表面は、布製、又は皮製、又は合成皮革でできている衝撃緩和性クッション材入り角袋状体であって、内部にクッション性を高めるために綿と羽毛、及びポリエステル綿、及び発泡ウレタンフォームから選ばれたクッション材を充填しており、背もたれ部に置くクッション部を横幅800～1000mm、縦幅800～1200mm、高さ幅200～300mmの正方形、又は長方形の矩形状クッション部の1～3個で、座板面の表面に敷くクッション部をソファの敷物役目になるように安定感を持たせて、布体、又は皮革体、又は合成皮革体にして、綿、及び羽毛、及び発泡ウレタンフォームから選ばれたクッション材を充填し、自由に脱着移動できるようにしている。

30

【考案の効果】

【0016】

チェアとソファの4体を用途に沿って、好みに沿って種々組み立てて、配置を変更が容易にできて、ソファの役目を十分に持たせているものができた。また大型チェアとソファ本体を好みの位置に付けることができ、また部屋の模様によってソファの位置を変更することによって、連結したソファ全体のデザインが損なわれることなくインテリアデザインとして十分に耐え得る装飾性を持たせた。組み合わせのソファ体とチェア体の単独に、或いは2～4体の連結組み合わせによって、ソファの座高を相対的に低くして、リラックスできる形状状態の単独的チェア、及び連結ソファ、及び簡易ベッドにして精神的、肉体的に身体を休める姿勢にすることになって、大型家具でも単独、或いは連結にて部屋内で適切に設置して使用できた

40

【0017】

ソファ部と背もたれ部とクッション部を傾斜面で持たせて、移動式のチェア、ソファ本体を室内装飾として有効に使用できる。また、クッション部を取り外してコンパクト化でき、さらには、チェア、ソファ本体が汚れたり損傷したりした場合に、チェア、ソファ部と背もたれ部の洗浄、修理、または、買替えを行うことができる等、非常に便利である。最近では、ソファの座高を相対的に低くして、ソファ形態のフレキシブル性が重要視され、形状や機能が異なる肘掛けを使用者が選択することにより、多様なデザインや用途に対応できるソファが望まれている。ところが、従来におけるソファの変更構造は、複雑なもの

50

ばかりで、製造業者及び使用者共に満足できるものではなかった。しかも、大型チェア、ソファー単独の室内装飾性が損なわれてしまうものも多く、このことは、現状における大型チェア、ソファの装飾的価値観を持たせた。

【図面の簡単な説明】

【0018】

【図1】多様性を高めた組み合わせソファ家具を表わす全体斜視図である。

【図2】多様性を高めた組み合わせソファ家具の4体の各々大型チェアと大型ソファを表わす斜視図である。A：オットマンソファタイプ B：部分的チェアタイプ C：コーナー状チェアタイプ D：長手ソファタイプ

【図3】多様性を高めた組み合わせソファ家具のクッションの状態図である。A：背もたれクッション部の概略的斜視図と断面図 B：座面クッション部の概略的斜視図と断面図

【図4】多様性を高めた組み合わせソファ家具の種々の組み立ての特定ソファを表わす図である。A：4連結団欒タイプ B：2連結安楽ソファタイプ C：3連結横たわりタイプ D：2連結横たわりタイプ

【図5】多様性を高めた組み合わせソファ家具で座高部を低くして、特徴ある傾斜のある背もたれ部を持つチェア体の基本体の姿の図である。A：コーナー状チェアタイプ B：コーナー状チェアタイプの背もたれ部 C：長手ソファタイプ D：背もたれの角材

【図6】多様性を高めた組み合わせソファ家具で、特徴ある傾斜のある背もたれ部にした、チェア体とソファ体の種々の組み立て(4体)の図である。

【考案を実施するための形態】

【0019】

本考案の実施形態を具体的に図示した図1から図6に基づいて更に詳細に説明すると次のとおりである。図中で指示するものは、チェア本体、ソファ部である。なお、本実施形態では、座り心地に優しく、所定の座位部の高さでソファを支持することができるような構造になっている

【実施例1】

【0020】

図1に示すように4種類の形態の異なる角型ソファタイプチェアの連結可能な大型低座高ソファにおいて、各角型ソファタイプチェアは厚さ30mm、幅100mmと150mmの厚板材で構成されており、骨格木質体の寸効として横幅850mm、縦幅870mmと1300mm、座高幅210mmの正方形、又は長方形の矩形状のチェア様体であり、背もたれ部を持たないオットマンソファタイプと、一カ所に背もたれ部を持つ部分的チェアタイプと、二カ所に背もたれ部を持つコーナー状チェアタイプと、二カ所の背もたれ部を持つ長手ソファタイプとで横幅と座高幅を同一した4体の組み合わせ連結ソファタイプになって、これらの4体の組み合わせのソファ体とチェア体の単独に、或いは2～4体の連結組み合わせによって、リラックスできる状態の単独的チェア、及び連結ソファ、及び簡易ベッドにして精神的、肉体的に身体を休める姿勢にすることになって、大型家具でも単独、或いは連結にて部屋内で適切に設置して使用できる多様性を高めた組み合わせ立体ソファ家具である。

【0021】

背もたれ部を持たないオットマンソファタイプと、一カ所に背もたれ部を持つ部分的チェアタイプと、二カ所に背もたれ部を持つコーナー状チェアタイプと、二カ所の背もたれ部を持つ長手ソファタイプとの4体は、それぞれオールナットの厚さ30mm、幅100mmと150mmの厚板材で、横幅850mm、縦幅870mmと1300mmの二種類、座高幅210mmの正方形、又は長方形の立体矩形状を構成して、横幅850mm、背高400mmの背もたれ部分を矩形座板面上の一カ所と二カ所に取り付けて、座板面に対して背もたれ部面を90の角度で直角面にして、背もたれ部分の補助的骨格木質体の格子形状に、角板材の3本の格子材を形成して、矩形状の背もたれ部分の空間部に直角面としてクッション材で傾斜的に取り付けしており、前記格子材を取り付けた背もたれ部面に厚さ200mmの正方体、又は長方体の布製の衝撃緩和性クッション材入り角袋状体を置いた

り、及び敷いた。

【 0 0 2 2 】

図 2 に示すように、リラックスできる状態の単独的チェア、及び連結ソファ、及び簡易ベッドにして精神的、肉体的に身体を休めることに有効になって、大型家具でも単独、或いは連結によって適切な広さの部屋で設置でき、図 3 で示すように、単独の場合には、背もたれ部を持たないオットマンソファタイプではと、一カ所に背もたれ部を持つ低座高のチェア、二カ所に背もたれ部を持つコーナー状チェアタイプでは片側にひじ掛けと低座高になっているチェア、二カ所の背もたれ部を持つ長手ソファタイプでは身体を横長に伸ばして休息できる休息チェア、4 体のソファ体とチェア体の連結組み合わせによって、図 1 に示すような 4 名の家族の団樂的ソファ、又は簡易安息ベッドに組み立てられた。

10

【 0 0 2 3 】

図 4 に示すように座板面に上面に置くクッション部と、背もたれ用クッション部の表面は、布製でできている衝撃緩和性クッション材入り角袋状体であって、内部にクッション性を高めるために、図 3 に示すように、綿、羽毛、発泡ウレタンフォームのクッション材を充填しており、背凭れ部に置くクッション部を横幅 8 6 0 mm、縦幅 8 7 0 mm と 1 2 0 0 mm の二種類で、厚さ幅 2 0 0 mm の正方形、又は長方形の矩形状クッション部の 3 個で、座板面の表面に敷くクッション部をソファの敷物役目になるように安定感を持たせて、布体、にして、綿、羽毛及び発泡ウレタンフォームのクッション材を充填し、自由に脱着移動できるようにした。図 4 に示すような種々の組み合わせのソファ体とチェア体にすることができた。それによって、団樂と休息と安楽感を感じた状態になった。

20

【 実施例 2 】

【 0 0 2 4 】

図 5 に示すように、4 種類の形態の異なる角型ソファタイプチェアの連結可能な大型低座高ソファにおいて、各角型ソファタイプチェアはオールナットの厚さ 2 5 mm、幅 1 5 0 mm の厚板材で構成されており、骨格木質体の寸効として横幅 8 4 0 mm、縦幅 8 4 0 mm と 1 2 0 0 mm と、座高幅 2 1 0 mm の正方形と長方形の矩形状のチェア様体であり、背もたれ部を持たないオットマンソファタイプと、一カ所に背もたれ部を持つ部分的チェアタイプと、二カ所に背もたれ部を持つコーナー状チェアタイプと、二カ所の背もたれ部を持つ長手ソファタイプとで横幅と座高幅を同一した 4 体の組み合わせ連結ソファタイプになって、

30

これらの 4 体で、ソファ体とチェア体の単独に使用する、或いは 2 ~ 4 体の連結組み合わせによって、リラックスできる状態の単独的チェア、及び連結ソファ、及び簡易ベッドにして精神的、肉体的に身体を休める姿勢にすることになって、大型家具でも単独、或いは連結にて部屋内で適切に設置して使用できる多様性を高めた組み合わせ立体ソファ家具になった。

【 0 0 2 5 】

図 6 に示すように、背もたれ部を持たないオットマンソファタイプと、一カ所に背もたれ部を持つ部分的チェアタイプと、二カ所に背もたれ部を持つコーナー状チェアタイプと、二カ所の背もたれ部を持つ長手ソファタイプとの 4 体は、使用する木質材としてそれぞれオールナットの厚さ 2 5 mm、幅 1 5 0 mm の厚板材で、横幅 8 4 0 mm、縦幅 8 4 0 mm と 1 2 0 0 mm と、座高幅 2 1 0 mm の正方形、及び長方形の立体矩形状を構成して、横幅 8 4 0 mm、背高 3 8 0 mm の背もたれ部分を矩形座板面上の一カ所、又は二カ所に取り付けて、座板面に対して背もたれ部面を 1 1 0 ° の角度で傾斜面にして、背もたれ部分の補助的骨格木質体の格子状形状に、角板材を角度として 2 0 ° の傾斜面にした 1 0 本の格子材を形成して、矩形状の背もたれ部分の空間位置に傾斜面として取り付けており、前記格子材を取り付けた背もたれ部面に厚さ 2 0 0 mm の正方体、と長方体の布製の衝撃緩和性クッション材入り角袋状体を置き、敷いた。

40

【 0 0 2 6 】

リラックスできる状態の単独的チェア、及び連結ソファ、及び簡易ベッドにして精神的、肉体的に身体を休めることに有効になって、大型家具でも単独、或いは連結によって適

50

切な広さの部屋で設置でき、単独の場合には、背もたれ部を持たないオットマンソファタイプではと、一カ所に背もたれ部を持つ低座高のチェア、二カ所に背もたれ部を持つコーナー状チェアタイプでは片側にひじ掛けと低座高になっているチェア、二カ所の背もたれ部を持つ長手ソファタイプでは身体を横長に伸ばして休息できる休息チェア、３体と４体のソファ体とチェア体の連結組み合わせによって、家族の団樂的ソファ、又は簡易安息ベッドに組み立てた。

【 0 0 2 7 】

座板面に上面に置くクッション部と、背もたれ用クッション部の表面は、布製でできている衝撃緩和性クッション材入り角袋状体であって、内部にクッション性を高めるためにポリエステル綿、及び発泡ウレタンフォームを充填しており、背凭れ部に置くクッション部を
10
横幅 8 0 0 m m、縦幅 8 0 0 と 1 0 0 0 m m、高さ幅 2 0 0 m m の正方形と長方形の矩形状クッション部の 2 個で、座板面の表面に敷くクッション部をソファの敷物役目になるように安定感を持たせて、布体、又は皮体、又は合成皮革体にして、綿と羽毛とウレタンフォームを充填し、自由に脱着移動できるようにした。

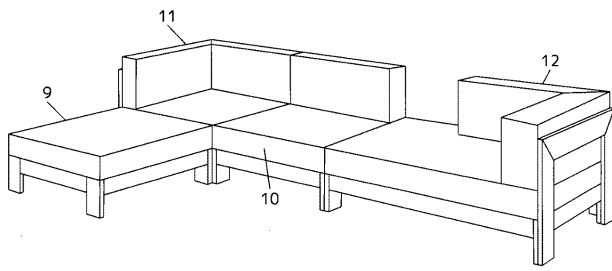
【 符号の説明 】

【 0 0 2 8 】

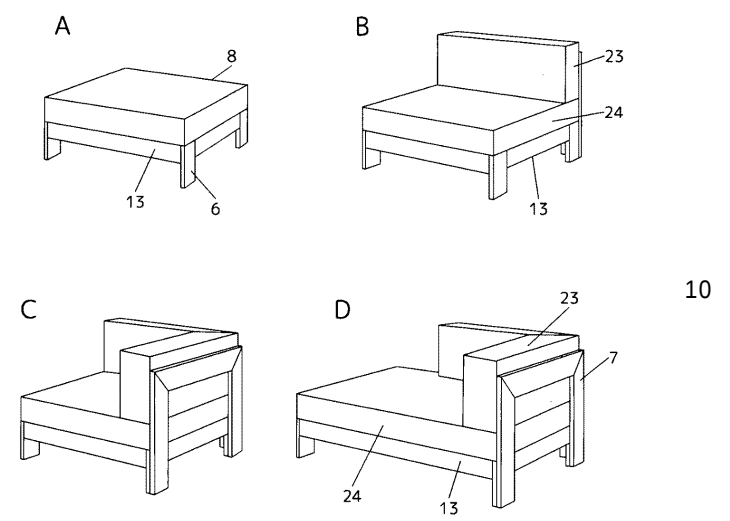
- | | | |
|-----|---------------------|----|
| 1 | ソファ体 | |
| 2 | チェア体 | |
| 3 | クッションの表面材（布、革 合成皮革） | |
| 5 | ひざ掛け部 | 20 |
| 6 | 脚部 | |
| 7 | 背もたれ部 | |
| 8 | クッション | |
| 9 | オットマンソファタイプ | |
| 1 0 | 部分的チェアタイプ | |
| 1 1 | コーナー状チェアタイプ | |
| 1 2 | 長手ソファタイプ | |
| 1 3 | 座板部 | |
| 1 4 | 骨格木質体 | |
| 1 5 | 背もたれ面格子材 | 30 |
| 1 6 | 補助的骨格木質体 | |
| 1 7 | 背もたれ面板材 | |
| 1 8 | 傾斜面 | |
| 1 9 | 角袋状体 | |
| 2 0 | 座板面 | |
| 2 1 | 直角面 | |
| 2 2 | 補助骨格木質体 | |
| 2 3 | 背もたれクッション | |
| 2 4 | 座板面クッション | |
| 2 5 | 4 連結団樂タイプ | 40 |
| 2 6 | 2 連結安樂ソファタイ | |
| 2 7 | 3 連結横たわりタイプ | |
| 2 8 | 2 連結横たわりタイプ | |
| 2 9 | 綿 | |
| 3 0 | 羽毛 | |
| 3 1 | ウレタンフォーム | |

【図面】

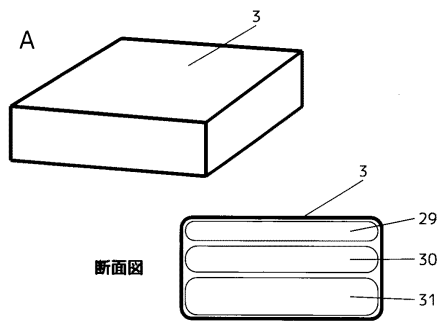
【図 1】



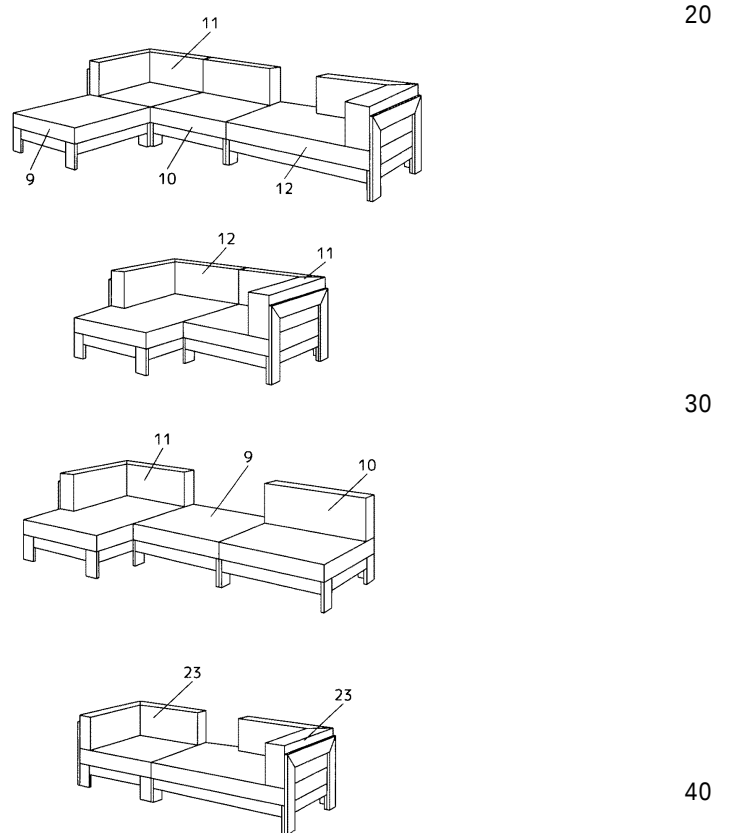
【図 2】



【図 3】



【図 4】



10

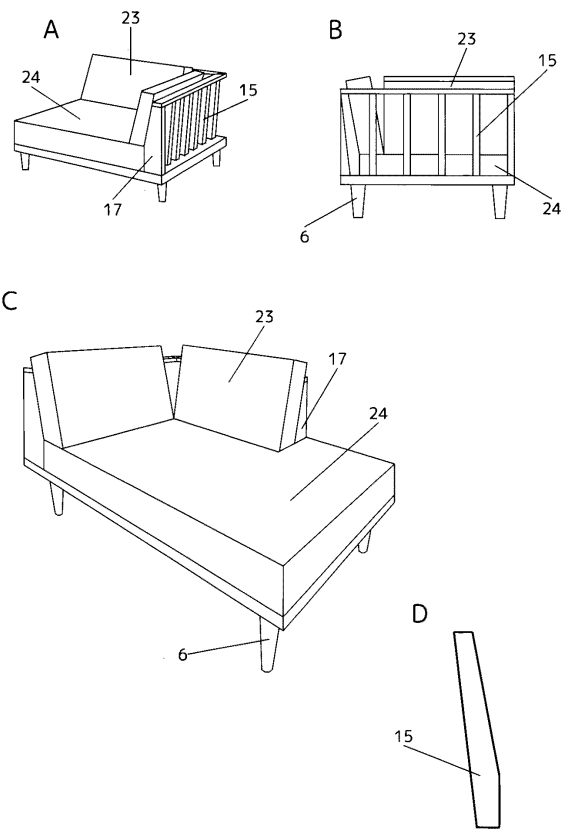
20

30

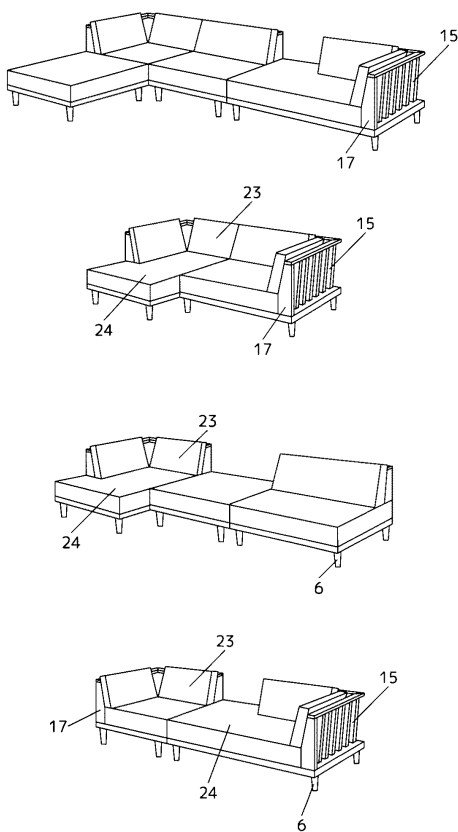
40

50

【 5 】



【 6 】



10

20

30

40

50

【手続補正書】

【提出日】令和7年2月27日(2025.2.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】

4種類の形態の異なる角型ソファタイプチェアの連結可能な大型低座高ソファにおいて、各角型ソファタイプチェアは厚さ20～50mm、幅100～150mmの厚板材で構成されており、骨格木質体の寸効として横幅800～1000mm、縦幅800～1300mm、座高幅200mmの正方形、又は長方形の矩形状のチェア様体であり、背もたれ部を持たないオットマンソファタイプと、一カ所に背もたれ部を持つ部分的チェアタイプと、二カ所に背もたれ部を持つコーナー状チェアタイプと、二カ所の背もたれ部を持つ長手ソファタイプとで横幅と座高幅を同一した4体の種々の組み合わせ連結ソファタイプになって、これらの4体のうち、ソファ体とチェア体の単独に、或いは2～4体の連結組み合わせによって、リラックスできる状態の単独的チェア、及び連結ソファ、及び簡易ベッドにして精神的、肉体的に身体を休める団欒・休息的姿勢にすることになって、大型家具でも単独、或いは連結にて部屋内で適切に設置して使用できることを特徴とする多様性を高めた組み合わせソファ家具。

10

20

30

40

50